

平成19年3月17日

平成19年度 第3回学校協議会 記録

大阪府立槻の木高等学校
学校運営室 山本 尚

日 時 平成20年 3月15日(土) 午後4時00分

場 所 槻の木高等学校 応接室

参 加 吹田さん (槻の木高等学校後援会会長)
壺谷さん (元高槻市PTA協議会会長)
芝井さん (関西大学副学長)
米津さん (高槻市立第1中学校校長)
田鎖さん (京大セミナー顧問)
長井教頭 (元槻の木高校教頭、現高槻北高校教頭)
松本校長、秋元教頭、小野事務長、吉田室長、山本首席

内 容 ① あいさつ

松本校長あいさつ

まず、委員の皆さんにお知らせすることがございます。3月13日付けで長井教頭が高槻北高校の教頭に転出されました。長井先生におかれましては、開校当初から多大なご苦勞があったと思いますが、槻の木高校を開校5年でここまで成長させて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。本日の協議会は、赴任先での校務お忙しい中来ていただきました。それでは、長井先生からごあいさつをお願いします。

長井教頭先生ごあいさつ

まだ、2日しか勤務しておりませんが、いい先生が多く安心しておるところです。廊下も職員室も広く、槻の木高校の環境の悪さを改めて感じました。これまで、委員の皆様には大変お世話になりました。感謝しております。これからは同じ高槻地域の学校として、槻の木高校共々高槻北高校につきましても、今後皆様からよきアドバイスをいただきたく思います。どうぞよろしくお願ひいたします。これまで本当にありがとうございました。

松本校長

また、3月13日付けで、本校の首席秋元先生が本校教頭になりましたので、秋元教頭からもごあいさつをお願いします。

秋元教頭あいさつ

前教頭が突然転勤となり、いまだ心の準備が整理できていない状態です。協議委員の皆様にもいろいろとご迷惑をおかけするかもしれませんが、どうぞよろしくお願ひいたします。

② 報告・提言

司会 (秋元教頭)

このような事態でありますので、当初考えていたことを若干変更いたしました。まず、現在制作中の槻の木高校の5年間の教育をまとめた本につきまして、ご報告いたします。本の執筆のほとんどは長井教頭が行いましたので、ご報告をお願いいたします。

長井教頭

たしかに執筆のほとんどをやらせていただきましたが、そこに書かれてありますのは、多くの各先生たちの頑張りの結果であります。私自身も、このことを通じまして、この5年間を振り返り、整理することができたかと思えます。完成いたしましたら、是非ご一読いただき、ご意見をいただきたく存じます。どうぞよろしくをお願いいたします。

壺谷さん

いつ頃完成予定でしょうか。また、お値段は？（笑）

長井教頭

3月中には製本されると聞いております。値段の方は実はまだ知りません。

司会

次に、この間の槻の木高校の取り組みをご説明いたします。

秋元教頭

まず、3年生（3期生）の進路状況です。現在集約中ですが、国公立大学につきましては、資料にもありますように現役・浪人ともにやや増加の傾向です。飛躍的な伸びはありませんでしたが、センター試験受験者はかなり増加いたしました。進路希望につきましては、今の2年生・1年生はさらに国公立受験傾向が強くなっていております。新3年の4期生は、国公立大学進学希望者が80名ほどおり、先日その集会を行いました。別の資料でもありますように、新2年生の5期生においては、継続的な学習時間が増えてきており、理系進学希望者も大きく増加しております。

田鎖さん

私立大学の状況はいかがでしょう。

山本首席

関関同立は現役は昨年並み、浪人は増加、産近甲龍は全体数を減らしました。今年度は私立大学の難化が一般に言われておるようです。

田鎖さん

そのとおりです。私立大学は今年度より水増し合格をかなり制限しております。関西大学などは特に難化したようです。

芝井さん

実は文部科学省の方からそのような指導があり、各大学それぞれその傾向にあるようです。

秋元教頭

さらに報告を続けます。本校の入試の件ですが、合格定員1クラス増の中、今年度は志願者数487名集まりました。合格者の状況は学力面や高槻市中学生の占める割合など昨年度とほぼ同じという結果になりました。今までのやり方を続けていくだけでは、今後大きな変化があらわれないのではと危惧しております。

もう一つの資料は、遅刻者の減少です。昨日の職員会議で報告があった内容を載せています。

芝井さん

高校入試以外のこれらの報告事項やデータを、どれほど情報開示をしておりますでしょうか。大切にしなければならないのは、情報を集めることとともに、いかに共有するかということだと思います。

吹田さん

3年生の春期講習の参加人数はいかがですか。

吉田室長

数学の申し込みは28名ありましたが、クラブ活動で参加できない生徒が多数いるときいております。数としてはまあまあだと思います。

吹田さん

春から本格的に講習を始めるのは大変いいことだと思います。高校3年の春休みは案外勉強しないようですから。

山本首席

全国的な進学校が集まったのシンポジウムに先日行ってまいりました。そこでおっしゃっていたことの中に、最近の私自身の経験からも全く同意できることがありました。それは生徒たちの最後の踏ん張りの欠如です。最後の踏ん張りがきく生徒が合格する。私たちは、その点で何人もの生徒たちを逃してきたように思います。最後の踏ん張りのポイントは周りの大人たちだと思います。一人一人の合格をかなえるためには、教師や親のフォローが絶対に必要であるということです。先日、新3年生の国公立大学志望者の集会を行い、そこで我々の決意を含めて「この1年間、君たちを助ける」と言い切りました。まあ頑張るのは生徒自身でしかないわけですが、最後の踏ん張りは大人たちが支えないと難しいと思ったわけです。

田鎖さん

今、受験の世界では、「受験カウンセリング」が必要だといわれています。場と環境は大人たちがつくっていかなければならない。そこで重要になってくるのは、その大人たちの組織化・チームワークです。

また、子どもたちは「ほめて伸ばす」こと。どんどんほめて、ほめちぎるくらいほめることを徹底する。手法として大いに考えられることです。

芝井さん

我々の世代はほめることが苦手です。頑張るのは本人の責任だと

いう考え方がやはり出てきてしまいます。確かに本人の責任なのですが、あえてほめることは本当に現在必要なことなのでしょう。あとは先輩の合格体験記はけっこういいと思います。

吹田さん

受験のとき、大人が予想できない反応や行動が子どもたちに出てきます。それだけ、我々の経験以上に今の子どもたちは動揺します。高校3年のときこそ、上手に支えることが必要なのでしょう。

司会

次の資料をご覧ください。これは、昨日の職員会議で配られた、槻の木の実務提要です。本校の様々な取り決めを一つにまとめたものです。

また、生徒手帳がようやく出来まして、来年度から生徒の配ります。他校の生徒手帳と違って、システム手帳形式のものです。従来の生徒手帳はその機能をはたしてはいませんでした。槻の木の生徒手帳は生徒が鞆に毎日携帯するのを前提につくっています。

山本首席

本校の若手の先生を集めまして、生徒手帳をつくりました。愛称を「メビウス」といいます。1日の終わりのSHRに担任は「メビウスを出しなさい」といい、連絡事項をメモさせる。また、毎日の学習の記録や、元気の出る一言など、盛りだくさんの内容にしています。この生徒手帳を通して、帰属意識や母校愛を高められたらなあと考えています。

芝井さん

大変面白いと思いました。若い先生ならではの、ではないかと思えますし、非常にいいアイデアだと思います。

司会

では、最後に皆さんから全体的なご提言をお願いいたします。

田鎖さん

今日も早く学校に着いたので、校内をぶらぶらしておりました。いろんなクラブの活気を感じました。すれ違う生徒たちが立ち止まって清々しいあいさつをしてくれました。本当にいい学校が育ったものだと感じました。協議会を通じ、先生たちとの交流し感じたことは、槻の木高校は学校をOPENにし、非常に謙虚な学ぶ姿勢をもっておられるということです。

これからの課題としては、卒業生の活用でしょうか。また日々の中で、生徒たちがちょっと自分を見つめる機会をたくさんつくってほしいということです。槻の木高校は伸びていってほしいと本当に思える学校です。是非頑張ってください。ありがとうございました。

壺谷さん

5年間、委員をやらせていただいた。槻の木の地域の一人として感じることは、4つの教育の柱の一つ、「規範意識」です。非常に評価が高い。地域に規律あるすばらしい高校が出来たこと、大変感謝しております。油断すると簡単に崩れるのが学校だと思います。頑張ってください。

芝井さん

槻の木のカラーは何か、ということに答えなければならない。しかし、そう簡単にできるものではないので、意識を常に持ち且つ長期的課題としてやっていけばいいと思います。進学に関しては、子供たちは不安感に弱く目標を下げがちだが、下げないことが大切で、どうしても下げなければならないときは先生が言ってやるということで、最後の踏ん張りが可能になると思います。

米津さん

高槻に誇れる高校をということで、開校前から間接的にかかわってき、見守ってきました。よくぞここまでいい学校が出来たものだと思います。このように槻の木には内外に様々関わってきた人の思いがあり、その重い忘れ去られることのないようにしていきたいと思っています。

吹田さん

学校というのは親のイメージが子どもたちに影響すると思います。予想以上の学校になったと思います。もっと槻の木高校はさらけ出して、いいところも悪いところも知ってもらって、地域とともに成長する学校であってほしいです。今後のさらなる情報発信をお願いいたします。

松本校長

どうもありがとうございました。実は田鎖さん、壺谷さん、米津さん、吹田さん、斉藤ネリーサさんには、今年度で委員を終わられることとなりました。これまでの暖かい数々のご提言、本当にありがとうございました。委員を離れられましても、槻の木高校に様々な形でご提言等いただきますようお願いいたします。本当にありがとうございました。